

日本版DMO形成・確立計画

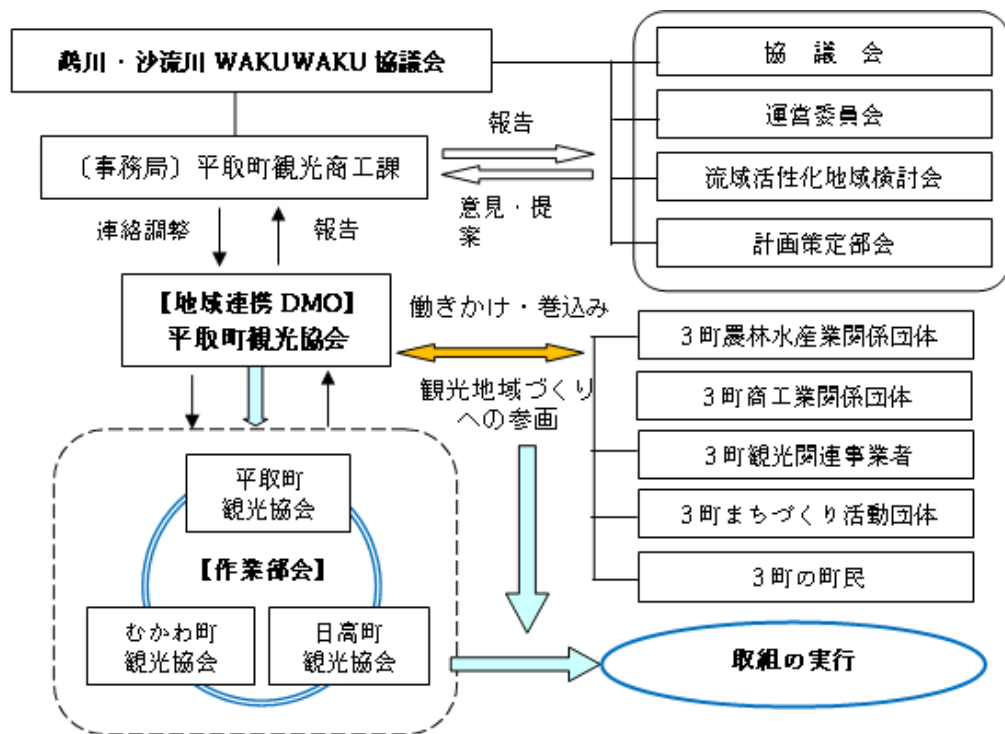
1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域連携DMO	
日本版DMO候補法人の名称	平取町観光協会 ※平成32年度に法人化予定	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	北海道勇払郡むかわ町、沙流郡日高町、平取町	
所在地	北海道沙流郡平取町本町28番地	
設立時期	平成30年5月25日	
職員数	3人	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 川上 満 (出身組織名) 平取町	平取町観光協会の代表である。平取町役場職員時代は、企画課長、総務課長を歴任。その後、副町長を経て平成20年に平取町長となり現在に至る。また、3町をとりまとめ、平成27年に鶴川・沙流川WAKUWAKU協議会を発足させ、協議会会長に選出された。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者(専門人材) ※必ず記入すること	(氏名) 新井貞則 「専従」 (出身組織名) (株)ノーザンクロス	調査分析・計画立案の経験を有し、幅広い知見と業務処理能力に加えて柔軟かつ機敏な行動力を併せ持つ。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	○地方自治体 ・むかわ町産業振興課 (行政としてのDMOの支援窓口、役場内連絡調整) ・日高町経済観光課 (行政としてのDMOの支援窓口、役場内連絡調整) ・平取町観光商工課 (行政としてのDMOの支援窓口、役場内連絡調整)	
連携する事業者名及び役割	○農産物提供や特産品、体験プログラムなどの連携 ・鶴川農業協同組合 ・とまこまい広域農業協同組合穂別支所 ・門別町農業協同組合 ・びらとり農業協同組合 ○海産物提供や特産品、体験プログラムなどの連携 ・鶴川漁協協同組合 ・ひだか漁業協同組合 ○体験プログラムなどの連携 ・苫小牧広域森林組合 ・沙流川森林組合 ○飲食店、商店、特産品開発などの連携 ・むかわ町商工会 ・日高町商工会 ・平取町商工会 ○観光案内、イベント、特産品開発・販売、プロモーションなどの連携 ・一般社団法人むかわ町観光協会 ・一般社団法人日高町観光協会 ・平取町観光協会 ○宿泊事業者 ・株式会社果夢工房 (ホテル四季の風:むかわ町) ・株式会社日高高原荘 (沙流川温泉ひだか高原荘:日高町) ・独立行政法人国立青少年教育振興機構 (国立日高少年自然の家:日高町) ・株式会社アンビックス (びらとり温泉ゆから:平取町) ○交通事業者 ・道南バス株式会社	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図	(該当する要件) ③日本版DMOの取組に関する連絡調整を行うため、行政や関係団体で構成す	

(別添) 様式 1

<p>るための合意形成の仕組み</p>	<p>る協議会等を DMO と別に設置 (概要) 平成 27 年 5 月にむかわ町・日高町・平取町の行政、地域経済団体が参加する鶴川・沙流川 WAKUWAKU 協議会を設置。協議会の下に、実務者レベルの運営委員会、地域住民が参加する流域活性化地域検討会、行政担当者による計画策定部会が設置され、調整と地域の合意形成を図る。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地域住民が参加する流域活性化地域検討会を 1 年間に数回、開催。そのほか、必要に応じて、意向把握のために住民参加型ワークショップを開催するほか、地域住民・産業関係者への啓発等を目的としたシンポジウムを開催。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要) 既存の観光協会として、観光情報の発信、イベントの開催、特産品の販売等の活動を行っている。 DMO としては今後、設立予定であるため、その活動実績はなし。 (定量的な評価) DMO としては今後、設立予定であるため、定量的な評価はなし。</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要) 行政や関係団体で構成する鶴川・沙流川 WAKUWAKU 協議会(協議会)において DMO が行う取り組みに関する連絡調整ならびに合意形成を図り、DMO は必要に応じて協議会での意見集約を行い、事業を実施する。DMO の母体として、平取町観光協会が担うことになった背景として、各地域団体の声として観光協会が担うべきとの声が多く、また、協議会の事務局がある平取町にあり、地理的にも中心に近い平取町観光協会がその母体にふさわしいと判断され母体となった。実施体制としては、3 町をとりまとめる平取町観光協会と、むかわ町、日高町の各観光協会からなる作業部会において協議・調整を行い、協議会メンバーに報告を行いながら、運営業務を行っていく。また、既存の会員に加えて、他の 2 町も含めて、宿泊業者、飲食業者、物販業者等の観光関係者、将来的には交通事業者、第一次産業従事者など多様な関係者が参画する体制への拡充を目指し、関係者が密接に連携した運営を行う。</p>

(実施体制図) 3 町の団体・町民と連携しながら観光地域づくりを推進していく。



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

むかわ町を貫流する鷓川と日高町・平取町を貫流する沙流川は、いずれも一級河川で何度も日本一に選ばれている清流で、鷓川は比較的穏やかな流れのため「女川」と、沙流川は大雨で洪水になるほどの暴れ川として「男川」とも呼ばれ、昔から「夫婦川」とも称されている関係にある。鷓川・沙流川流域の豊かな自然を背景に第一産業を基幹産業として発展してきた共通のコンセプトを有し、それぞれが魅力ある観光資源を有していることから、それらを互いに活かすためにも当該3町で連携して広域交流圏域の形成を目指す区域として設定した。

【観光客の実態等】

札幌市から車で約1時間半～2時間半、新千歳空港から同じく1時間弱～1時間半程度と比較的近い距離にあり、富良野・美瑛、旭川などの観光圏と新千歳空港の間に位置することから、日帰り観光客が多く、宿泊者は全体の1割弱となっている。国内外ともに団体旅行よりも個人旅行の来訪が多く、通過型の旅行者が大半を占める。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

アイヌ文化、恐竜、鷓川シシャモ、門別競馬場、温泉、農村風景、溪谷、森林、ラフティング、スキー、登山、ゴルフ、キャンプ、フィッシング、道の駅、穂別流送まつり、鷓川地蔵まつり、ひだか樹魂まつり、門別ししゃもまつり、スズラン観賞会

むかわ町穂別地域では、日本でも稀な恐竜の全身骨格が発見され、国内外から注目されている。また、むかわ町、平取町ではアイヌ文化の伝承が活発に行われ、平取町では北海道で初めて伝統的工芸品や重要文化的景観に指定されている地域もある。さらに、日高町を中心に日本で有数の馬産地としての特徴を持つ地域である。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

区域内の宿泊施設数 29軒 収容力 4,300人（キャンプ場を含む）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

鉄道：区域まで移動可能

バス：区域内まで移動可能

車：日高自動車道、道東自動車道利用で区域内まで移動可能

【外国人観光客への対応】

観光パンフレット等の情報発信ツールは、英語、中国語、韓国語の多言語対応を行ってところもあるが、未だ普及はしていない。英語対応できる職員が在籍している博物館もあるが、全体的にはかなり不足している。地域のなかではインバウンドサポーター育成などの動きが見られることから、継続した育成へ繋げ、対応できる人員を増やし配置していくことが必要である。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
延べ宿泊者数	延べ宿泊数推移、顧客層、経済波及効果の把握・分析とデータに基づく観光振興戦略を練るため。	各町行政で収集し各振興局に提出している延べ宿泊数を行政を経由し収集・分析を行う。 顧客層把握のため、宿泊者数のほかに、宿泊目的や年齢層、性別、居住地、滞在日数など各宿泊施設協力依頼し、アンケート調査によって情報の収集も行う。
旅行消費額	来訪者属性による旅行消費額の推移、経済波及効果の把握・分析とデータに基づく観光振興戦略を練るため。	四半期ごとに道の駅などの主要観光施設での国内外来訪者に対し、対面ヒアリング又は留め置き方式(多言語表記)での調査。 5地域の各イベントにおいて、対面ヒアリング調査、バスツアー参加者に対しては都度アンケート調査を実施する。
来訪者満足度	来訪者属性による圏域内での観光の実態、満足度とニーズの把握、滞在時間延長に向けた課題抽出するため。	四半期ごとに道の駅などの主要観光施設での国内外来訪者に対し、対面ヒアリング又は留め置き方式(多言語表記)での調査。 5地域の各イベントにおいて、対面ヒアリング調査、バスツアー参加者に対しては都度アンケート調査を実施する。
リピーター率	来訪者属性による日帰り、宿泊を伴う旅行実態を把握し、観光戦略を練るため。	四半期ごとに道の駅などの主要観光施設での国内外来訪者に対し、対面ヒアリング又は留め置き方式(多言語表記)での調査。 5地域の各イベントにおいて、対面ヒアリング調査、バスツアー参加者に対しては都度アンケート調査を実施する。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	WAKUWAKU協議会HPを活用して実施。
入込観光客数(外国人を含む)	地域内行政は毎年継続して調査を行っているが、外国人に関しては行っていない地域もあることから、地域全体として取り組み、データに基づく観光振興戦略を練るため。	各町行政で収集し各振興局に提出している観光入込数(インバウンドを含む)の実数化されたものを行政を経由して収集・分析を行う。 調査が行われていない項目、イベントなどの実数化されていない集計については、各施設やイベント実行委員会などに集計依頼をする。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トマトや和牛、ししゃもなど産地化されていて、生産物が豊富である。 ・ 生活に根付いたアイヌ文化に触れることができる。 ・ 日本最大の恐竜の全身骨格が発掘された。 ・ 歴史や産業に裏付けられた地域ならではの特色がある。 ・ 自然が豊かである。 ・ 各地域でそれぞれ素晴らしい景観を見ることができる。 ・ 高速道を使うと都市圏や空港から近い。 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道の代表的な観光地ではないので知名度が低い。 ・ 人口減のため、あらゆる分野でマンパワーと人材が不足している。 ・ エリア内の各団体や施設との横の連携がない。 ・ 各産業において後継者不足している。 ・ 旅行者への食事提供環境や宿泊施設、体験プログラムが不足している。 ・ 二次交通が不十分。 ・ インバウンド対応できる人材や施設等の不足している。
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 32 年度に白老町に民族共生象徴空間が整備され、国立アイヌ文化博物館の新設によりアイヌ文化に関心が高まる。 ・ 平成 32 年東京オリンピック、パラリンピックの開催によりインバウンドの増加が予想される。 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣町の国道開通に伴う観光ルート変更により通過観光客も減少している。 ・ JR 日高線の復旧めどが立っていない。 ・ 日高自動車道の延長による地域経済への影響がみられる。

(2) ターゲット

平成 30 年度以降に系統的なデータ収集・アンケート調査等を通じたマーケティングと分析を継続的に実施し、来訪者のニーズを把握するマーケットインと地域資源を有効に活用するプロダクトアウトの両者の検討結果を融合してターゲットの設定をより明確にし、地域連携 DMO として来訪者のニーズに即した観光戦略を策定していくこととしている。

そのため、本計画においては、当圏域の地域資源を有効に活かすことを視点としたターゲット層として設定することとする。

<p>○第 1 ターゲット層 文化に興味がある国内外の旅行者</p>
<p>○選定の理由、取組方針</p> <p>当圏域には魅力ある文化がいくつもある。その一つであるアイヌ文化は、むかわ町鶴川地域や平取町の沙流川流域にアイヌ文化が色濃く残っている。特に平取町のアイヌ文化では、北海道初の伝統的工芸品に指定された「二風谷イタ」、「二風谷アットウシ」があり、世界的にも注目を浴びている。さらには、白老町に国立アイヌ文化博物館ができることもあり、近年アイヌ文化への関心が高まってきている。また、むかわ町穂別地域では、日本最大のハドロサウルス科恐竜の全身骨格化石（むかわ町穂別産／通称「むかわ竜」）が発掘され、子供から大人まで全国の恐竜ファンの注目を浴びている。日高町においては、全国有数の馬産地であり歴史ある馬文化が存在している、門別地域には「門別競馬場」もあり、たくさんの競馬ファンが訪れている。</p> <p>当圏域にはたくさんの文化があり、連携をはかりながらプロモーション活動を行って</p>

(別添) 様式 1

<p>いく。また、見学スポットや体験プログラムなどを充実させ、観光ルートづくりを行い、当観光圏を構成する各町の観光協会が旅行商談会などに出展を行い、イベント等でも情報発信し、当圏域への誘客を図っていく。</p> <p>外国人受け入れ環境の整備についても、各町で進められてきており、不十分な場所については各行政と協力をはかりながら環境づくりを進めていく。</p>
<p>○第2ターゲット層 食に興味がある国内外の旅行者</p>
<p>○選定の理由、取組方針</p> <p>当圏域には、さまざまな生産物のししやも、トマト、和牛などがあり、それぞれ産地化されている。各飲食店においても、地域食材を利用した食事の提供がなされてきている。過去のツアーなどのアンケート調査においても参加理由として食が多く挙げられていることから、地域を知ってもらうコンテンツとして最適であり、国内外、年齢差問わず集客力があると考えられる。</p> <p>各地域内の食事場所のマップ作りや圏域内の食提供者との連携を図り食のスタンプリーのような体験イベントも検討し、魅力あるコンテンツに発展させていく。いつでも生産されて販売されるかわかる食材カレンダー、食べ方の提案などを作り、情報発信も行う。また、第1ターゲット層と同様に、当観光圏を構成する各町の観光協会が旅行商談会などに出展を行い、イベント等でも情報発信し、当圏域への誘客を図っていく。</p>
<p>○第3ターゲット層 自然に興味がある国内外の旅行者</p>
<p>○選定の理由、取組方針</p> <p>当圏域は、山、川、海という自然あふれる地域であり、四季折々の景色が楽しめる。また、自然アクティビティもすることができ、スキーやラフティング、フィッシング、フットパス、乗馬、バードウォッチング、農・漁業作業体験（野菜の収穫や地引網など）が楽しめる。食と同様に観光客にとって来訪する主たる目的の一つでもあるため、魅力ある地域資源の活用をはかる。</p> <p>各地域内で見ることのできる景色や行える体験などを網羅したマップ作りや、体験プログラムを充実させ、情報提供できる内容と環境を整えていく。また、第1ターゲット層と同様に、当観光圏を構成する各町の観光協会が旅行商談会などに出展を行い、イベント等でも情報発信し、当圏域への誘客を図っていく。</p>

(3) コンセプト

<p>①コンセプト 鷓川・沙流川がつなぐ 清流の恵みと人が輝くまち</p>
<p>②コンセプトの考え方</p> <p>鷓川・沙流川流域には、清流と豊かな森林を背景とした自然とともに、恐竜化石やアイヌ文化、馬産地としての歴史・文化や、農林水産業による恵みのもとに、生き生きと暮らす人たちの魅力があり、さまざまな発見にワクワクするまちがある。</p> <p>ただ、現在、人口が減少し、今後、活気が低下していくことが心配されている。</p> <p>地域に住む人、訪れる人が共に手を携えて、これからも住み続けたい、訪れてみたいまちを創っていく。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	DMOの専従職員によるマーケティング調査結果について、3町の観光関係者とともに分析し、観光関係者だけでなく地域の産業従事者、町民などの多様な関係者の意向を反映しながら観光戦略(案)の策定と共有を行う。戦略を実行に移すにあたっては、WAKUWAKU協議会の構成員との調整や協力関係を構築する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	商工会や飲食店組合等と連携を組み、アンケート調査結果の共有を行う。 地域ガイドシステムを構築し、ガイドの講習や情報の共有などを行う。
一元的な情報発信・プロモーション	ワンストップ窓口の実施、SNSを利用した効果的なプロモーション、ポータルサイトの立ち上げを予定。

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目	単位	30年(度)	31年(度)	32年(度)	33年(度)	34年(度)	35年(度)
●旅行消費額	円	()	()	()	()	()	()
●延べ宿泊者数	人	平成30年度から調査を実施する予定。					()
●来訪者満足度	%)
●リピーター率	%	()	()	()	()	()	()

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

3町で同一の調査方法にてアンケート調査やヒアリングなどにより、平成30年度のデータを把握し、その後の基礎となるような分析を行い、目標値を設定する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

平成30年度から来訪者へのアンケート調査を行い、飲食、土産品購入、自然・文化体験などの使用額を把握し、それをもとに今後の増加率の設定を行い、今後の増加率を設定する。

●延べ宿泊者数

平成30年度から宿泊施設に協力を依頼し、3町の統一した方法で延べ宿泊者数を把握する調査を行い、それをもとに今後の増加率の設定を行う。

●来訪者満足度

平成30年度よりアンケート調査を実施し、それをもとに今後の増加率の設定を行う。

●リピーター率

平成30年度より来訪者や宿泊施設等に協力を依頼し、それをもとに今後の増加率の設定を行う。

(別添) 様式 1

(2) その他の目標

指標項目	単位	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)
●(今後の調査により設定)		()	()	()	()	()	()
●(今後の調査により設定)		()	()	()	()	()	()
●(今後の調査により設定)		()	()	()	()	()	()
●(今後の調査により設定)		()	()	()	()	()	()

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p>【検討の経緯】 必須KPIの調査及び目標値の設定ができた時点でその他の目標を設定するかの検討を行うこととする </p> <p>【設定にあたっての考え方】</p>
--

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入(円)	内訳
30年度	4,104,000(円)	(内訳の区分例) 【協議会からの委託料】 4,000,000円 【特産品販売】 92,000円 【案内手数料】 12,000円
31年度	6,530,000(円)	(内訳の区分例) 【協議会又は公的機関からの助成金・補助金等】 6,000,000円 【会費収入】 60,000円 【特産品販売】 370,000円 【案内手数料】 100,000円
32年度	6,721,000(円)	(内訳の区分例) 【協議会又は公的機関からの助成金・補助金等】 6,000,000円 【会費収入】 90,000円 【特産品販売】 455,000円 【案内手数料】 150,000円 【予備費】 26,000円
33年度	6,989,000(円)	(内訳の区分例) 【協議会又は公的機関からの助成金・補助金等】 6,000,000円 【会費収入】 120,000円 【特産品販売】 500,000円 【案内手数料】 200,000円 【予備費】 169,000円

(別添) 様式 1

34 年度	7,199,000 (円)	(内訳の区分例) 【協議会又は公的機関からの助成金・補助金等】 6,000,000 円 【会費収入】 150,000 円 【特産品販売】 639,000 円 【案内手数料】 200,000 円 【予備費】 210,000 円
-------	---------------	---

(2) 支出

年度	総支出	内訳
30 年度	4,104,000 (円)	【人件費・基本経費】 3,060,000 円 【マーケティング調査費】 842,000 円 【観光案内・PR 費】 151,000 円 【収益事業経費】 51,000 円
31 年度	6,530,000 (円)	【人件費・基本経費】 4,080,000 円 【マーケティング調査費】 1,000,000 円 【観光案内・PR 費】 800,000 円 【観光ルート費】 300,000 円 【人材育成費】 120,000 円 【収益事業経費】 204,000 円 【予備費】 26,000 円
32 年度	6,721,000 (円)	【人件費・基本経費】 4,080,000 円 【マーケティング調査費】 1,000,000 円 【観光案内・PR 費】 800,000 円 【観光ルート費】 300,000 円 【人材育成費】 120,000 円 【収益事業経費】 252,000 円 【予備費】 169,000 円
33 年度	6,989,000 (円)	【人件費・基本経費】 4,080,000 円 【マーケティング調査費】 1,000,000 円 【観光案内・PR 費】 800,000 円 【観光ルート費】 500,000 円 【人材育成費】 120,000 円 【収益事業経費】 279,000 円 【予備費】 210,000 円
34 年度	7,199,000 (円)	【人件費・基本経費】 4,080,000 円 【マーケティング調査費】 1,000,000 円 【観光案内・PR 費】 800,000 円 【観光ルート費】 500,000 円 【人材育成費】 120,000 円 【収益事業経費】 354,000 円 【予備費】 345,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

鷗川・沙流川 WAKUWAKU 協議会又は公的機関からの助成金・補助金等が主な運営資金となるが、自立化に向けての特産品の販売や観光プログラムの斡旋などの手数料収入のほか会費収入など自主財源の確保にも努めながら、持続的な経営を行っていく。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

北海道むかわ町、日高町、平取町は、平取町観光協会を北海道むかわ町、日高町、平取町における地域連携DMO候補法人として登録したいので、平取町観光協会とともに申請する。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	山口 雄大
担当部署名 (役職)	事務局長
所在地	北海道沙流郡平取町本町 28 番地
電話番号 (直通)	01457-3-7703
FAX 番号	01457-2-2277
E-mail	suzuran-kanko@town.birator.lg.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	北海道平取町
担当者氏名	増田 貴司
担当部署名 (役職)	観光商工課 課長
所在地	北海道沙流郡平取町本町 28 番地
電話番号 (直通)	01457-3-7703
FAX 番号	01457-2-2277
E-mail	masuda.takashi@town.birator.lg.jp

都道府県・市町村名	北海道むかわ町
担当者氏名	酒巻 宏臣
担当部署名 (役職)	産業振興課 課長
所在地	北海道勇払郡むかわ町美幸 2 丁目 88 番地
電話番号 (直通)	0145-42-2330
FAX 番号	0145-42-3771
E-mail	keizai@town.mukawa.lg.jp

都道府県・市町村名	北海道日高町
担当者氏名	川西 光浩
担当部署名 (役職)	経済観光課 課長
所在地	北海道沙流郡日高町門別本町 210 番地の 1
電話番号 (直通)	01456-2-6031
FAX 番号	01456-2-6191
E-mail	kawanishi.mitsuhiro@town.hidaka.hokkaido.jp

【区域】北海道むかわ町、日高町、平取町

【設立時期】平成30年5月25日

【代表者】会長 川上 満

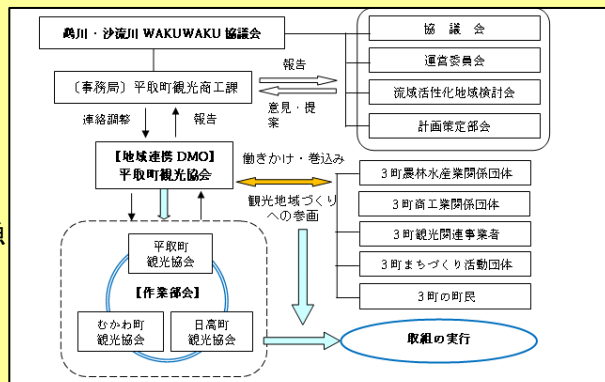
【マーケティング責任者】DMO担当 新井貞則

【職員数】3名

【連携する主な事業者】

鵜川農業協同組合、とまこまい広域農業協同組合穂別支所、門別町農業協同組合、・びらとり農業協同組合、鵜川漁業協同組合、ひだか漁業協同組合、苫小牧広域森林組合、沙流川森林組合、むかわ町商工会、日高町商工会、平取町商工会、・(一社)むかわ町観光協会、(一社)日高町観光協会、平取町観光協会

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)	年(度)
旅行消費額	()	()	()	()	()
延べ宿泊者数	※この項目に関して、当地域では調査実績がないことから、平成30年度から調査を実施し、数値を設定する。				
来訪者満足度					
リピーター率	()	()	()	()	()

むかわ町穂別地域

鵜川の中流域に位置し、豊かな自然のもと、メロン栽培など農林業により発展してきた地域。首長竜や恐竜の化石が発掘されており、古代からの歴史を感じることができる。

むかわ町鵜川地域

鵜川が太平洋に注ぎ、全国的にも「鵜川ししゃも」が有名な、農水産業が盛んな地域。鵜川流域には古くから生活文化が発展しアイヌ文化も継承されている。河口の干潟に野鳥も多く訪れる。



日高町日高地域

沙流川の源流域に位置し、道北・道東との交通の結節点にもあたる農林業の盛んな地域。ラフティングやスキーなど河川や森林を活かしたアウトドアが盛んな雄大な自然に囲まれ、町民によるひだからガイドも活躍している。

平取町

トマトや和牛生産等が農業が盛んなまち。沙流川流域にアイヌ文化が発展し、二風谷イタ、二風谷アットゥシが北海道で初めて伝統的工芸品に指定されるなど、生活に根付いた伝統文化が現代に継承されている。

日高町門別地域

馬産地日高を体現する、ホッカイドウ競馬の門別競馬場があり競走馬の牧場が広がる。沙流川が太平洋に注ぎ、ししゃもや鮭など海産物の種類も多く、農水産業が盛んな地域。